

自然誌 だぶり 春

Natural history

三重自然誌の会情報誌 68号

2006年 6月

耳 穴 島

国道42号を南下し(私は松阪在住です), 荷坂峠を下ってしばらくすると左手に大小の島々が見えてきます。これらの島嶼がいくつあるのかわかりませんが, 鈴島や大島, 赤野島, 耳穴島などが比較のおおきな島です。これらの中で耳穴島はもっとも北にあり, 行政的には紀北町と大紀町にまたがっています。紀伊長島港からは約5 km, 面積は5 ha, 最高地点は33mです。この島はカンムリウミスズメの繁殖地として知られていますが, 最近, オヒキコウモリの生息地としても(極々一部で)注目を集めています。一昨年, 鳥類調査に訪れた武田恵世氏により岩の裂け目に生息するコウモリが発見され, 昨年, 佐野明氏らの調査によりオヒキコウモリであることが確認されました。今回(5月21日)の調査も主目的は本種の生息状況調査ですが, 他分野の方も参加しましたので, その結果を記録しておきます。鳥類では, クロサギ成鳥を3羽, ウチヤマセンニュウ数羽, トビ, メジロ, イソヒヨドリ, カラスなどを確認しました。また, クロサギの卵殻残骸やカンムリウミスズメの古巣も確認しましたので, 繁殖も行われたようです。オヒキコウモリについては今後も調査を継続する予定ですので, 別の機会に報告します。なお, 耳穴島は国設鳥獣保護区に指定されておりますので, この調査は環境省の許可・立ち会いのもとに行いました。



写真 耳穴島全景(中), オヒキコウモリ(左)とその生息環境(右)。2006年5月21日, 塩崎哲哉撮影。

<清水善吉：松阪市日丘町1386-17>

耳 穴 島 の ク モ

塩 崎 哲 哉

2006年5月21日、紀北町長島港の沖合に浮かぶ耳穴島を調査する機会を得ました。長島港から渡船で10分あまり、到着した耳穴島はまわりを切り立った岩場に取り囲まれた小さな島です。この島は環境省の絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されているカンムリウミスズメの繁殖地として有名なところです。また、国設鳥獣保護区特別保護地区にも指定されています。鳥類が繁殖している可能性もあるので気をつけるようにとの指示を受け、調査を開始しました。

イソハエトリがいるのではないかと、足下の悪い岩場を移動しながら探していると、早速その姿を現してくれました。腹部の先端に白い斑点があるのが特徴です。海岸の岩場や堤防などで見かけます。足下に気をつけながら写真を撮りました(写真1)。さらに探していると、アオオビハエトリがいました。腹部に青いメタリックに輝く帯のある美しい蜘蛛です(写真2)。岩のくぼみにたまった落ち葉をかき分けると、カニムシの仲間やヤスデの仲間がたくさんいました。そこからオレンジ色をした小さなハエトリグモが走り出てきました。カタオカハエトリです。



写真1 イソハエトリ

マツの枝の間に壊れかけた円網を見つけました。蜘蛛はいません。糸をたどって、糸の付着している枝を探ると、いました。ヘリジロオニグモです。円網を張る種でも、網の中にはいず、このように糸の付着している枝の中にひそんでいる蜘蛛もたくさんいます。マツの枝先に蜘蛛の糸を見つけ、探してみるとアシプトヒメグモがいました。



写真2 アオオビハエトリ

一休みしていると、黒い大きな鳥が飛んでいきます。クロサギとのこと。また、上空には翼が三日月のように湾曲した黒い鳥がたくさん飛んでいます。アマツバメとのことでした。岩場に厚ぼったい葉を持った白い花が咲いています。ハマボスというそうです。いろんな分野の方と一緒に調査をすると、自分の専門以外の生物についてもいろいろと教えられることがあり、楽しみの一つです。

一通り調査をした後、渡船をお願いして隣の島へわたりました。この島にはオヒキコウモリがいるということで、それを探すためです。上陸してすぐ「いた」との声。岩の割れ目の中に数頭のオヒキコウモリがいました。チット高い（コウモリにとっては低い声とのこと）鳴き声が聞こえます。同行の中優さんが蜘蛛を発見して持ってきてくれました。見るとコアシダカグモです。この蜘蛛は森の中や洞窟の中で見る人が多いので、このような環境にいたことが驚きでした。今回の調査で、7種のクモを確認することができました。

目 録

- アシプトヒメグモ *Anelosimus crassipes* 2♀
- ヘリジロオニグモ *Neoscona subpullata* 1♀
- コアシダカグモ *Sinopoda forcipata* 1♀

カタオカハエトリ *Euophrys kataokai* 1♂
マミジロハエトリ *Evarcha albaria* 幼体
イソハエトリ *Hakka himeshimensis* 1♀3♂
アオオビハエトリ *Siler cupreus* 1♀2♂

くしおざき てつや：御浜町下市木2338-1>

耳 穴 島 の 陸 産 貝 類

中野 環・中 優

紀北町と大紀町にまたがる耳穴島は紀伊長島港から東方5 km沖にある複数の岩礁からなる島です。両側は海蝕崖の急斜面になっていて潮風の影響を強く受けるためか、植物は島上部にわずかにみられます。耳穴島はカラスバトやカンムリウミスズメなどの国指定の天然記念物種やウチヤマセンニュウの繁殖地としても知られています。

これまで本島からの陸産貝類の記録はありませんが、2006年5月21日に渡島し陸産貝類の調査を実施したところ、1種の生息を確認しましたので報告します。

島の大部分は岩盤が露出し、陸産貝類の生息には不向きな環境ですが、頂に近い場所にはクロマツ、ウバメガシ、ツワブキ、ハマウド、ササユリなどがみられ、これらの根元で、ニッポンマイマイ科の陸産貝類を確認しました（写真1）。殻は極細密な螺状脈があり、やや光沢に欠けます。今後の参考にといい解剖して生殖器を摘出しました。鞭状器（fl）は、やや湾曲しながら太さは変わらず長く伸び、先端は棍棒になっていました（図1）。

耳穴島より沖合いにある紀伊長島大島にはウロコムロマイマイ *Satsuma japonica lepidophora* Kuroda (MS.) が記録されているので（大原・大谷, 2002, 湊, 2002）、耳穴島で確認した種がこれにあたるのでは・・・と期待をしましたが、湊宏氏にムロマイマイの変種 *Satsuma (Satsuma) japonica peculiaris* A. Adams, 1868 Var. とご同定いただきました。

ややがっかりしたものの、太平洋に浮かぶ離島の厳しい環境下にも陸産貝類が生息することに興味関心はつきません。

最後になりましたが、陸産貝のご同定をいただきました湊宏氏に深謝申し上げます。

引用文献

湊 宏. 2002. 紀伊長島“大島”の陸産貝類. 南紀生物. 44 (2) : 132.

大原健司・大谷洋子. 2002. 西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士標本目録 (1). 西宮市貝類館研究報告, (1) : 1-139. 西宮貝類館.

<なかの たまき：度会町大野木1711-1, なか まさる：伊勢市小俣町本町1284>



写真1 ムロマイマイの変種 *Satsuma (Satsuma) japonica peculiaris* A. Adams, 1868 Var.

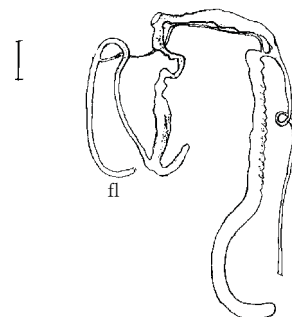


図1 ムロマイマイの変種 *Satsuma (Satsuma) japonica peculiaris* A. Adams, 1868 Var. の生殖器.
fl—鞭状器 flagellum
スケールは5mm

刺網にかかったウミウシ

中野 環

潮干狩りや磯遊びをする季節の到来です。磯にはウニやヒトデ、ウミウシなど様々な生物が生息しています。ウミウシはアサリやサザエと同じ軟体動物で、これまで三重県から50種類ほど確認されています。最近ではダイビングの普及に伴い、ダイバーによってさまざまな種が鮮明な生態写真と共に報告されことも多くなりました。

ウミウシは磯採集やダイビング以外にも、エビや魚を獲る刺網などでも得られることがあります。今回は刺網で得られた3種について報告します。

インターネットウミウシ

ウミウシはダイバーによっていろいろな名前がつけられ楽しまれており、中にはインターネットウミウシというユニークな名前をつけられたウミウシがいます。この種はヒオドシウミウシ科に属する大きさ10cm以上になる大型のウミウシです。体色は黄色が中心で体表面上の突起から赤黒色の網目状の模様が入ります。これまで2例を確認しましたが、2例とも残念ながら網により体表が擦られ、本種の特徴である網目模様が消えかかっていたいました（写真1）。志摩市和具にて2個体を得ました。



写真1 インターネットウミウシ

データ：2005年12月4日 志摩市志摩町和具水深10～15m

2006年4月9日 志摩市志摩町和具水深60～80m

ニシキウミウシ

本種はイロウミウシ科に属する大きさ5cmほどのウミウシです。体はやや細長く軟らかいのですが、刺激すると硬くなります。カラーバリエーションが豊かな種で、3つのタイプに分けられることもあります。刺網では比較的良く掛かりますが、水深40～60m付近の深場で得られることが多いように思います。最近も志摩市和具にて、青紫の縁取りがつながるタイプ（写真2）と、つながらないタイプ（写真3）の2タイプを同時に確認しました。



写真2 ニシキウミウシ
(縁取りがつながるタイプ)



写真3 ニシキウミウシ
(縁取りがつながらないタイプ)

データ：2006年4月9日 志摩市志摩町和具水深40～60m

ハナデンシャ

本種はハナサキウミウシ科に属する大きさ10cmほどのウミウシです。灰色の地に、赤、黄、白色など大小の突起があります。砂泥底に生息し刺激を与えると体全体から青白い光を発することが知られています。少し前になりますが、志摩市安乗の刺網で得ました。陸にあげられ時間が経過していたので発光を確認することができませんでした（写真4）。



写真4 ハナデンシャ

データ：2003年5月4日 志摩市阿児町安乗

くなかの たまき：度会町大野木1711-1>

三重県における「ノミガイ」の初記録

現在、これまで私が採集してきた貝類標本の見直しを行っています。その中で三重県初となる「ノミガイ」の記録があったので報告します。

1999年5月16日、志摩郡志摩町（現志摩市）和具の和具大島の林内で採集しました。三重動物学会が開催した和具大島での観察会に参加した際に採集したものです。

ノミガイは写真1のとおり、殻長3.5mm前後の小さな陸貝で、今回確認された島や海に近い場所に生息することが多いようです。

なお、同日は、ツムガタギセル、ウスベニギセル、オカチョウジガイ、シママイマイ（矮小型）、ウスカワマイマイ、オナジマイマイ、イセノナミマイマイも採集しました。

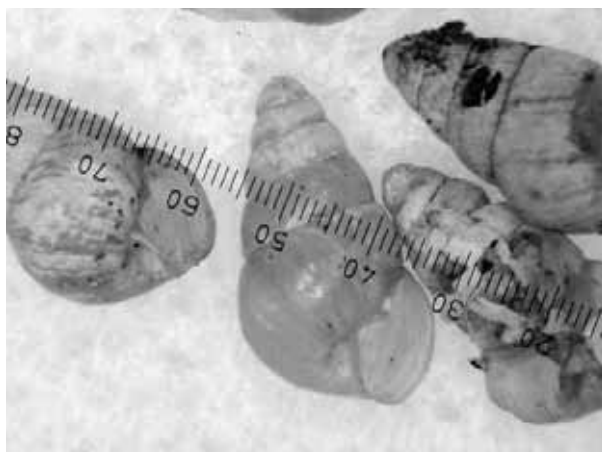


写真1 ノミガイ（1目盛は0.1mm）

＜中 優：伊勢市小俣町本町1284＞

ケブカツルカコソウが生育していました



写真1 ケブカツルカコソウ. 2006年5月15日, 明和町で撮影.

三重県レッドデータブック2005ができました。この大変な事業の一部に、経験の少ない自分も参加させていただいたことを大変嬉しく思っています。改めて御指導いただいた多くの方々に感謝いたします。今後も調査を続け、一般の方々からの情報も得てより正確なレッドデータにしていくことが大切だと思っています。

さて、先日（5月14日）のこと、これまでも非公式情報はあったものの、今回のレッドデータではEX（絶滅）にランクされているケブカツルカコソウ *Ajugashicotanensis*

f. *hirsuta*の生育を確認できました。田園の中よく草刈りされた土手と農道脇で、花茎を伸ばし花をつけているのを植物グループのメンバー4人で確認しました（写真1）。

これまでに残っている標本は、鈴鹿市（1928年）と明和町（1925年）のものですが、今回の確認場所は明和町と多気町の境界付近で、1925年の標本とほぼ同じ場所と思われます。約80年ぶりの再発見ということで（その間、ずっと人知れず生きていた）、感激しました。

文献

三重県環境森林部自然環境室（編）. 2006. 三重県レッドデータブック2005植物・キノコ. 三重県環境保全事業団.

＜山路武夫：松阪市大黒田町318＞

野菜などの流通にともなって移動する昆虫たち

中 優

昨年4月から始めた主夫生活も一年が経ち、それなりに慣れて細かいところまで目が届くようになってきたせいか、これまで気づかなかったことにも注意が向くようになりました。最近、気になることに出会ったので、そのことについて報告します。

それは、産直販売やスーパーなどで買ってくる野菜に、幼虫も含めた昆虫がたまに付いているということです。整理したものが表1です。玉城町産のシイタケの「ホソオオクチキムシ（写真1）」は収穫の段階で混入していた個体をそのまま袋詰めしてしまったために、茨城県産のサニーレタスの「ハエの仲間（写真2）」と玉城町産のキャベツの「シロチョウ科？の幼虫（写真3）」についてはいずれも葉の隙間に混入していたため、消費者である私の手元に届いたと考えられます。

「ホソオオクチキムシ」と「シロチョウ科？の幼虫」については、私が見つけたときにはいずれも生きており、特に「ホソオオクチキムシ」は成虫であることから野外へ放たれれば、種のかく乱が懸念されるところです。ただ、アスピータ玉城へ来るお客さんの多くは私のような近隣市町村の在住者であり、アスピータ玉城との距離は大きくありません。また、「シロチョウ科？の幼虫」については、見つければゴミ箱へ、見つからなければお腹の中へと消えてしまい、野外へ出るチャンスはほとんどないものといえます。茨城県産のサニーレタスに採用されている真空予冷法は鮮度を保つための方法で、昆虫類を殺す効果については色々調べましたが分かりませんでした。「ハエの仲間」については、私が見つけたときには動かなかったためすぐにアルコール液に漬けてしまいましたが、低温により仮死状態にあったかもしれません。いずれにしても、家庭においては「シロチョウ科？の幼虫」と同様の経過をたどるものと考えられます。

今回、見つかった昆虫たちはほんの一部だと思いますが、私たちが恩恵を受けている今日の物流システムの中で、日本全国ではいったいどのくらいの昆虫たちが移動しているのでしょうか。



写真1 ホソオオクチキムシ



写真2 ハエの仲間

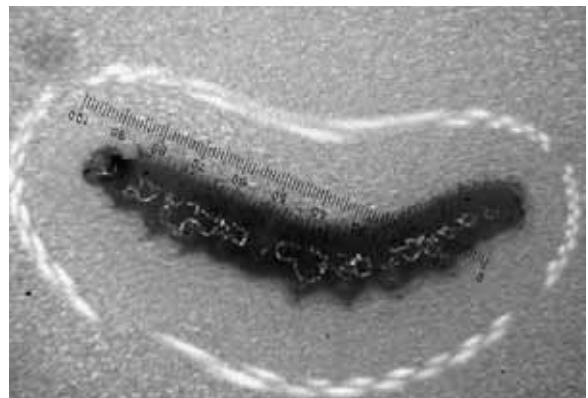


写真3 シロチョウ科？の幼虫

表1 野菜に混入していた昆虫

No.	年月日	種名	生死	野菜など	産地	備考
1	2006/4/8	ホソオオクチキムシ	生	シイタケ	玉城町	ビニール袋詰め アスピア玉城で購入
2	2006/4/11	ハエの仲間	死？	サニーレタス	茨城県（岩井中央農事 園芸連）	真空予冷法(5℃まで冷 却)で処理後出荷
3	2006/4/23	シロチョウ科？ の幼虫	生	キャベツ	玉城町	アスピア玉城で購入

くなか まさる：伊勢市小俣町本町1284>

三重県レッドデータブック2005，刊行

三重県レッドデータブック2005が刊行されました。「植物・キノコ」編と「動物」編の2分冊からなり、前者には維管束植物、蘚苔類およびキノコ、後者には哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、クモ類、甲殻類、貝類およびその他の動物が含まれ、各534頁、498頁の大冊です。

構成は、総論、各論、資料および委員会提言の4章からなり、総論では「三重県の自然環境」として地形・地質や気候、野生生物の概略が、また、「本書の概要」として調査や選

定方法について述べられています。各論は、本書の中心をなす章であり、各分類群の概要、レッドリスト種の解説がカラー生態写真（一部標本）や分布図とともに掲載され、文献リストもあげられています。資料には、「希少野生動植物主要生息生育地」、「カテゴリー・チェックシート」、「三重県内天然記念物」および「三重県指定希少野生動植物種」の一覧が掲載されています。本レッドリストを作成するにあたっては、客観的な評価を行うことを目標としており、チェックシートをみれば各種がどのような根拠でランクされたのかがわかります。

最後に委員会提言がまとめとして掲載され、三重県の博物館機能（標本の収集・整理や人材の養成）の整備についても提言があります。ちなみに、4月から県立博物館の学芸職員数が倍増し、自然系だけで4名の方が配置されています。この人数は県博の50余年におよぶ長い歴史の中で最高ではないかと思われ、自然系博物館整備を求める本会の要望が実現しつつあることを嬉しく思うとともに、県立博物館の今後の活動に大いに期待したいと思います。

本書の入手を希望される方は下記にお問い合わせ下さい。各分冊2800円、セットで5000円、送料は別途必要です。

（財）三重県環境保全事業団環境調査部

TEL. 059-245-7509 FAX. 059-245-7519



三重自然誌の会ホームページの開設

去る3月21日、『三重県レッドデータブック2005』の発行を前に開かれたシンポジウム会場において、清水先生との雑談の中で自然誌の会のホームページを開設しようではないかという話になり、それでは！ということで早速、『三重自然誌の会～私的応援サイト』的に作成してみました。

数ある団体のあか抜けたすばらしいホームページがあるなかで、我がホームページは手近なソフトで基本的な機能しか使っていないので粗末なものですが、『アットホーム』をモットー？にしております。

つきましては、会員の皆様にも是非ご覧いただき、またいろいろな御意見をお聞かせ願いながら、公式サイトとして皆様に親しんでいただけるホームページを作っていきたいと思っております。

ホームページ URL: <http://www.zb.ztv.ne.jp/mie-shizenshi/>

メールアドレス e-mail: mie-shizenshi@zb.ztv.ne.jp

＜上田利彦：津市久居一色町＞

事務局から

〇ついにHPが

会設立時からの懸案であった三重自然誌の会ホームページが、上田会員の尽力により開設されました。とにかく利用される（もたらん会の趣旨にそう形で）ものをつくっていきたいと思いますので、こんなのがほしい、こんなことをやってみたい、という「提案」をどんどんお寄せ下さい。とりあえず、三重県産野生生物の目録がありませんので、できる分野から掲載していきたいと思います。第1弾として、爬虫類と両生類を近々のせる予定です。また、会員の皆さまのなかにはこの分野が得意な方もおみえと思えます。上田さんと一緒にホームページづくりを担当してくれる方を募集していますので、やってみようかなという方はご連絡下さい。

〇会費納入をお願いします

前号と一緒に会費納入のお願いをさせていただきましたが、まだの方はよろしくをお願いします。なお、退会される方はご一報下さい。

〇自然誌だよりを活用下さい

本会会員の中には、いろいろな分野で調査活動をされている方や、各地で保護活動に関わっている方が見えます。また、これから活動したいと思っている方も多いかと思います。本会の目的のひとつに、そのような方々が交流する場を提供することにありますので、ぜひ「たより」やHP等でそれぞれの活動をご紹介下さい。

編集後記

離島調査はワクワクします。耳穴島行の時は晴天で、半袖で一日を過ごしたものですから日焼けをしまい、5月にして腕の皮がボロボロとめくれました。次号では植生についても報告予定です。皆さまもいろいろな観察記録をご報告下さい。（善）

自然誌だより68号

発行日 2006年6月1日

事務局 〒514-0835 松阪市日丘町1386-17
清水善吉方 三重自然誌の会

発行者 三重自然誌の会

郵便振替口座 00800-5-17842 三重自然誌の会
年会費 1,500円（個人）／2,000円（家族）